

「アラブの春」——体制変動のうねり——

泉沢 久美子

二〇一〇年末にチュニジアから始まった民衆運動「アラブの春」の波は、瞬く間にエジプト、イエメン、リビアの政権を崩壊させた一方、シリアではいまなお泥沼の内紛が続いている。この「現在進行中」の体制変動について、多くの中東専門家らが活発に議論・検討を重ね、この地域の歴史的背景や国際関係の中で読み解こうとしている。ここでは、二〇一一年以降に発表された日本の主な著作を紹介する。

● 専門家を結集した発信

『アラブ革命—チュニジア・エジプトから世界へ—総集編』（『現代思想』臨時増刊。青土社、二〇一一年）は、幅広い分野の中東専門家を総動員して編まれたもので、革命の熱気がそのまま伝わってくる。また、東京外国語大学では逸早く二〇一一年三月に公開ワークショップを開催し、報告にまとめたのが酒井啓子編『アラブ大変動』を読む—民衆革命のゆくえ』（東京外国語大学出版会、二〇一一年）である。編者は、当時の大変動に専ら焦点を当てること、それが生み出した諸変化とインパクトの大きさを風化させないことを意図したと記す。西芳実・山本博の編『中東から変わる世界』（地域研究コ

ンソーシアム、京都大学地域研究統合情報センター、二〇一一年）は、四月に開かれたシンポジウムの報告書。中東だけでなく途上国研究者を多数動員し、おもにアラブ革命の背景と国際的な連関性について語る。水谷周編著『アラブ民衆革命を考える』（国書刊行会、二〇一一年）は、エジプト、リビアなどの北アフリカ、シリア、湾岸・アラビア半島諸国の状況を考察する。

● 包括的に論じた著作

研究者の多くは、今回の民衆革命を決して突発的なものではなく、これまでの長い抵抗運動と組織化された反体制運動など、様々な階層の人々による「社会からの異議申し立て」の結果だと捉える。この一連の体制崩壊と民主化について包括的に論じた研究では、福富満久『中東・北アフリカの体制崩壊と民主化—MENA市民革命のゆくえ』（岩波書店、二〇一一年）があり、北アフリカ四カ国を政治経済・社会構造について実証研究を行い、比較考察する。また、長沢栄治『エジプト革命—アラブの世界変動の行方』（平凡社、二〇一一年）は、これまでエジプトで発生した革命との類似性を比較分析したうえで、エジプト革命の背景と

なった抵抗運動について詳細に考察した後、今後のエジプトの行方、パレスチナ問題への影響を述べる。

武力抗争が続くシリアについては、国枝昌樹『シリア—アサド政権の四〇年史』（平凡社、二〇一一年）と青山弘之『混乱するシリア—歴史と政治構造から読み解く』（岩波書店、二〇一一年）がある。両書ともまず、シリアの反体制派の情報に偏ったメディアのあり方に疑問を呈し、現実を捉えない単純化した報道を批判する。前者は、帝国主義時代の列強による覇権争いや建国後に繰り返された中東戦争の中で翻弄されてきたシリアの歴史からアサド政権を考察する。また、後者は、なぜ反体制運動が成功しないのかという逆説的な問題提起を行い、「民主化」論だけでは捉えられないシリア情勢について、その現代史、政治構造、国際関係など、複雑に絡み合った要素を解きほぐす。

この「アラブ革命」を世界史に記録される大事件と位置づけ、広く国際関係史の中で捉えたものが、次の二冊で、一般向けに平易に書かれている。まず、白杵陽『アラブ革命の衝撃—世界でいま何が起きているか』（青土社、二〇一一年）は、中東の政治体制の底流に流れる植民地遺制、ナショナリズム、戦争と平和、民主化、イスラーム運動、民族・宗教紛争といった視点から概説する。

山内昌之『中東新秩序の形成—「アラブの春」を越えて』（NHK出版、二〇一一年）は、アラブ諸国で発生した体制変動の考察から始まり、イラン、トルコも含めた中東の政治力学の変化とアメリカの対中東政策について構造的に考察した後、今後の日本の中東外交について提言を行う。

● アジア経済研究所の発信

伊能武次・土屋一樹編『エジプト動乱—1・25革命の背景』（日本貿易振興機構アジア経済研究所、二〇一一年）は、エジプト革命についてムバラク政治、企業と政府の関係、労働運動、二〇一一年の人民議会選挙での宗教政党の躍進、人口、失業、貧困問題といった社会経済的背景などから分析する。また、アジア経済研究所のウェブサイトで、「アラブの春」を取り上げた以下の報告を掲載している。

- * 国際シンポジウム『中東地域の政治変動—政軍関係、民主化、国際関係』。
 - * 『アラブの春』と中東政治の構造変容『アジアワールドトレンド』二〇一二年 一月号。
 - * 『中東・南アジア地域の平和シナリオ構築に向けて』（政策提言研究会）。
 - * 『アラブの春とアラビア半島の将来』（機動研究報告）。
- （いずみさわ くみこ／アジア経済研究所図書館）